



志のしん子原入世色の雅公惟一世為す
たみくの藤しりぬを向の昔必形老色
一しんちの踏むく先魁神喜廊
昔信女付いこの徳いそをまねたる子
あつこのしんちの世の國あしんちの書入る
くまの世士のあしんちのそまの福福
世のしんちの世の世のしんちの世の世の世

一
浦



水田より存れ居りて吾隣共
背負ふしり江戸一日帰り
三月暮りし時如見世の心
業おきかへしおれよの好
又お入るやうお思へば
義理何ぞ母おすゝめの上
血の是れ起る子の世如
燈哉子兄ゆき村の
瓦村

20

五

雲街の何れもあはれ中
柔をぬらさるる世に
飯時も舗と柔水の二つ
為替の金お上旬
樋の口も有る害の
りけいおる馬
新下り吉次帳の
袋おしり
袋

30

新納の市は水子^の心^の育^の戸^の層
心^の育^の人^の心^の裁^の造^の正^の之
唯^のり^の水^の子^の心^の育^の戸^の口^の芽^の臺
二^の三^の日^の聲^のを^のう^のき^のる^の 意^の猫^の馬^の高^の
喉^の子^のを^の好^の心^の子^の心^の育^の戸^の口^の芽^の臺
故^の心^の子^の心^の育^の戸^の口^の芽^の臺 味^の子^の之^の

舟^の成^のの^の腰^のま^のう^のわ^のる^の 独^の麦^の茶^の 而^の后^の

名^の於^の後^のの^の人^の聲^のま^のる^の 一^の清^の

川^の船^のや^の小^の口^の揚^のる^の 炭^の俵^の菊^の枝^の

あ^のら^のさ^の日^のや^の水^のを^の濁^のる^の 生^の草^のを^の 木^の洲^の

井橋の日子釣とめる篇
廿六
井橋

吹雪の君よの世に
春屋

あこぎの世の
岸一

鶯の若ふる
如鶴

流少一
如鶴

10
宵月子
如鶴

苗代や小村
如鶴

水車
如鶴

倒さ木の田子の月世の好字の^系有安

等や日和空ある 於水倉 赤甫

人稀ふ雲 居る女 烟爨 公成

あふ瞳や雲山のあふ 船日影 為山

舟子若くは 山あふと 雲を交る 西馬

舟子舟子 舟も雲水 梢葉 五休

御手洗子 飛子 舟見 雲子 帆 暮我

20 見色なきは 是く 舟一棹 雲 好以

軒あみ吹井打く蘇島卜早

何物一紐の勤く必楯明り上井由儀

軒垂の止むや取ふき由の考守黒

於る一雲の底形天の川水臺

初はるく見たり道すむ七日守郎

あまのたにくもあまの櫻山呂燈

くまのまの誰よのあり給ふ只青

系一遊のまの口まの牡丹葉印月

町形、舟曲る流やうきりきり、ふ深

30 秋立やかゝるまゝの、藤の先、さき雄

木の根を洗ひ出、くさくさ、百之

、麻、素、人、村、の、也、秋、風、瓦、村

七夕や、結、衣、着、る、初、づ、か、祖、心

息、を、あ、れ、の、あ、ら、ま、な、る、清、水、を、此

見、あ、ら、ま、に、我、も、浮、草、の、お、も、い、か、の、葉

子、規、一、番、鐘、の、山、の、と、日、見、お

常侍の蹤をみまゝに也 陸奥守 爲裁

好の群子乃々如 陸奥守 爲裁 仁眼

善の角は是れに居て 陸奥守 爲裁 善也

40 日舟は是る雲や 舟人の心の上 爲裁

山吹や伸るかきり 舟人の心の上 爲裁

麦所は味を是れ 舟人の心の上 爲裁 平民

飲まぬ月を 舟人の心の上 爲裁 舟

倉科の庭を 舟人の心の上 爲裁 舟

乙香文考一の標を裁き傳ふ 春來

みちくド一葉の心やまや産出り 汎翠

いつくまの葉房めきぬ蘇の心 集

雪の限り江の流るる月の影 芦雪

うらさき一葉の心やまや産出り 春來

50 梅咲やまの川流の標定き 春來

若山一葉の心やまや産出り 春來

鳥の心を何ぞかきとる 宗玉

梅咲や物ゆくと水よりのこゝろ 龍吟

吹河れそまよふいさきかや梅司

四五本の枝子あつる小坂水 波鷗

露残る葉の跡をゆめみさす 拙作

生似 世好き女歌きくちる木を のり 双鳥

ちう屋吉心子見ると春人交加 三光

角力取人子志くせと老子なり 山子

60 牡丹見たりけりよき女好きの夢 逸例

落つる子先きフ〜フ如か産後フ多代め

校書生の内子見えたり秋の佇 留木

くろく又の些如虹や卯月定アハ茶湯

急扇あつて空〜フ帰らう如 由誓

権名氏公墅掛磬之吟

下總を色連流

殊縁イヒタの春と冬帰る燕の子イヒタ志交

横を子有明の〜フ如雲雀小 山鳳

雲の船おしきつる出立如 燕楽

新屋也藤を刈る如の如き
凡藤

山雲や去年の屋を雪の降る雪

70 暖の空をのそるや 紅のむ 佳風

ハ先子芥生句ハ 遠水 茶風

傾くくくの日を 経る 茶山子 茶 普卜 貝塚

静きや宵の然を 崎田 螺子 船

夕立の何れや 何れや 何れや 何れや 米磨

為面の、何れや 何れや 何れや 何れや 茶葉

舞やゆゑの葉かたれは紗の書来入

くさし子雲を海に銀河角止

48 山もまゝの白の雲やまゝの稲の心柳三

家もまゝの海にたゞのまゝの夜更の栲田恭

80 尾をたてし樹子今春のつゆふ上層

山穀子魚も老より及れ月八才後行

女郎心かたけ春のまゝの竹管雀

水もや分れぬはつゆの如き路子燈

結くのみと来り宿や暮の州 宿行

片側へるの橋古ゆ夏木立 方水

暮のけつとをささく 出船茶梅支

月影のささや 子る水 西来 雙橋

茶のむや旭夕日のさき 小家 波和

柳のむ暴冷を〜ぬり〜
琴田 暮山

90 晴途みささのぬく〜
秋の暮 有丸

大木を動かすはる 柳の聲 如茶

小娘更に月も光る如き花の咲く時

原のくさくさ咲く花の影に正月

初陽の初子は直き夕の影に晴山

梅咲くもやうに好むの影に里川上毛

夕陽も浪もついでに村子原海老沢暮明

曉のちりりしたる花の影に交枝

角のちりりしたる花の影に暮丸

江のちりりしたる花の影に小川暮影

100 秋の水底を流る遊魚の如く
久保 松栢

梅を身合眼先子とて思ふ
若久二

春もあか方の不居を先うり
玉峰

雪晴るる最の夜の如く
保久保

辞意合子可き女子の日傘
大田 林友

自を白く思ふと縹紅の如く
南柳

月夜を雲の如く見る尾の如く
有章

よく見通す遊魚の如く
子蟻

水仙のふりくもぬるや茶の樽はらサキ 小物

夕暮やきしのむちる時イワミ 山

110 春のや一日くもる 山の家イワミ 新月

植福寺松の根子そよふ 暁の丸 旭扇

梅のよや流るるけり 羽織より 為丸ハルヒ

鶯の鳴るる木や旭の昇る 籠子

ささけふよりくまのさきの落葉や 子麦

空おろるるやうく 秋のまきり 山南

虫鳴やうきやうき候の古墨智龍

露の日は濤の音の如く古恵

花咲く如く古くはる子なり 恒光

茶子汲と下行のや茶の心 新歩

蝶鳴や帯の直古推る本 總尾

稚子鳴や此もはるの土 節一

しるもや風情ゆくき井の契 道足

藪入や何やとるの雉やうし 一素

福引や誰や子似て笑ひ顔 華山

雲のうらみ子生くるる月の 新屋 八百希坊

角子色し春ふ来ぬ百子春 月丸

彦端も若ふおろけ山如引 兼福 又原

取ふの雪かまこのおをりり多 山里 アエト

昔ふあつるあぬ山つたりしれ 山庄

所々くと梢啼くしそまの秋 一夢

昇る霧をのれきりめとわかれま 喃月

たゞゆくを物産白く量るの 花層 小貝花

月心の糸に詠めや稲の心 木更

子規ゆくは 涙も眠らばに 筆 ノタ

江子空より落付新く秋の夜 里仁 ノリタ

おの威光つらうを拂ふ牡丹茶 ツハキ ころろ

白菊の斜 ノカヲカ ぬくは紅糸 ノハルミ 掃遊

まきもや昔は後のつらき ハルミ 露 ぬ

白菊の所 コトク うまを海草は魚や 露老

手のくま揃子及えり藤の花 入世 和

十月や柿木子鳩のこころ コトタ 梅月

夢や心あつりの川を何と おの 驚高

都より伝りのくま雪 イワノ ぬるれ 和彦

舟うもつと群出るう コトタ 管 取 鶴川

行ある成るやう ナツメ ぬり 滋月 菊彦

舞糠のり モロモナ 垣根や水仙花 壽平

昔しきや小貝子 ハ けの引 舞 階丸

塩子替砂のうらまきと女妻の風 コトタ 梅子

意猫や魚をうねるの止まりに 柳枝

涼きと船と水碓の巻物 コトタ 赤目

木母と子人のうらまきと雲を峰梅友

深古亭 晴まき梅 コトタ 梅仙

三日月の朧とけの嶽の氷 コトタ 梅友

五目石 コトタ 梅友の梅日記 深丸

高水子 コトタ 一生の梅屋 コトタ 梅友

馬のくまを好む柳の岸は素直

新秋七瀬の流るる川舟 入世 交指

物あはれ 新丁 揚圓

幾夜うかきう居し 推名 秋の山 波勢

相伝の書志つまらぬ 廿二 桐一葉 休宣

雲宵のりる月を透るる雲山 龜壽

雲濕性録

心移る旅の中 自來 湯茗

福宮高のつとめ
さしつかへなく
おこなひし

月落のあやしき夜は
霧のり

入世
唯一

